

令和6年度第1回太宰府市総合戦略推進委員会会議録  
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- |   |     |              |
|---|-----|--------------|
| 1 | 日 時 | 令和6年5月29日（水） |
|   |     | 午前10時00分開会   |
|   |     | 午前11時35分閉会   |
| 2 | 場 所 | 太宰府市役所3階 庁議室 |

2 委員出席者

|         |         |
|---------|---------|
| 委 員 長   | 八 尋 茂 雄 |
| 副 委 員 長 | 八 尋 和 郎 |
| 委 員     | 青 山 博 秋 |
| 委 員     | 池 田 昌 太 |
| 委 員     | 大 西 良   |
| 委 員     | 小 川 祥 平 |
| 委 員     | 日下部 寛 行 |
| 委 員     | 福 留 大 士 |
| 委 員     | 松 澤 尚 史 |
| 委 員     | 結 城 茉 優 |
| 委 員     | 亀 崎 弘 記 |
| 委 員     | 施 光 恒   |
| 委 員     | 菊 地 裕 子 |

3 執行部

楠田市長・原口副市長・轟総務部長・宮原経営企画課長・宮崎総務部理事・杉山総務部理事・佐藤市民生活部長・川谷健康福祉部長・大谷健康福祉部理事・柴田都市整備部長・高原都市整備部理事・友添観光経済部長・中山教育部長・八尋教育部理事・野寄議会事務局長

4 議題

- (1) 次期総合戦略に向けた進め方について
- (2) 現行総合戦略のレビューについて
- (3) 市政積年のもしくは社会先進的な課題別グループについて

## 5 概要

### 議題（１）次期総合戦略に向けた進め方について

#### <事務局説明>

- ◆ 本年度は第２期総合戦略が最終年度を迎えることから、現行総合戦略のレビュー、総括を行い、次期総合戦略を策定するスケジュールを予定しており、その内容について委員の方々に審議いただく予定としている。
- ◆ 令和６年度施政方針にて本市市政積年のもしくは社会先進的な課題として示している５つの重要テーマ、危機管理の徹底強化、子どもまんなかの施策展開、市民と交流人口・関係人口の相互発展、新しい公共をテーマとした仕組みづくり、歳出入一体改革の推進についても、市職員を含むグループ分けを行ったうえで審議いただき、その内容についても次期総合戦略の策定に活用していきたいと考えている。

### 議題（２）現行総合戦略のレビューについて

#### <事務局説明>

- ◆ 現行の総合戦略は４つの基本目標がありその下に３１の施策、さらに８４の事業という体系で構成されている。それぞれの事業について、KPI成果指標やOutput設定、重要設定などを行っており、事業用の評価シートをもって、細分化した評価を行う予定である。シートは８４事業分作成し、そちらの評価をもって、４つの基本目標の総括評価を行う予定。
- ◆ 評価にあたり、因果関係が希薄で定量評価が難しい項目が設定されているなどの意見等もいただいているため、しっかり評価が行えるよう改善していく予定である。

#### <委員意見・提案>

- ◆ 評価の仕方が複雑な感じがするが、一般的にこういうやり方という確立されたものがあるのか、それとも国から手法の指導があるのか。

#### <事務局説明>

⇒評価の仕方は地方自治体によって様々。今回の評価の仕方は事務局で考えた案であり、国からは評価の方法やシート等が示されているわけではない。試行錯誤しながら進めていきたいと考えている。

### 議題（３）市政積年のもしくは社会先進的な課題別グループについて

#### <市長説明>

- ◆ 施政方針の５つの重点項目に沿い希望を取り、現時点での案ではあるが、基本的には第一希望のところに当てはめている。重なりも含めてもう少し班分けについては相談させてもらいたい。あわせて職員も役職に沿い２～３人のチームにしており、職員と連携して年度を通して様々な議論、具体化、また進捗管理などを行っていただければ大変ありがたい。
- ◆ 各重点項目においても、他の重点項目にもリンクしていくため、各重点項目の分野で全て周りと断絶するということではなく、全ての分野においてやっていくことになる。
- ◆ 総合戦略の４つの構想との関連性も整理をしていかなければいけない。これ以外の分

野についても、あれば総合戦略にも含めていかなければならない。

- ◆ これまでの総合戦略は1期目の公約などを基に作成し、成長戦略、圏域拡大、歳入増、歳出の効率化などに非常に力を入れて訴えてきた。その結果、自立持続可能性自治体への選出やふるさと納税の飛躍的な上昇、市税収増加等により一定の歳入増も達成し、中学校給食なども実現してきた。次のフェーズとして、市民を中心に据えてどう市政を進めていくか、さらに具体化、解決を進めることが重要になってきたと考えている。よいところは伸ばしながら、まだ課題として残っていることにしっかりと踏み出していくことが重要であり、そのような総合戦略にできればという意味で5つのチーム分けを行っている。

#### <委員意見・提案>

- ◆ 歳出の一体改革の推進というのは、いろんな施策を進める上での基盤になるような議論ということになるのか。

#### <市長説明>

⇒人数に限りがあるなか行政の仕事は拡大しているため、歳出入一体改革だけではなくて全てにおいて、DXの観点なり最新の技術を活用し効率化を図りながら、課題解決に導くことは重要でありテーマとなる。

一方でアナログ的なすぐやる班を発足させた。イノシシの対策やカーブミラーの調整など市民ニーズに的確に早く応えていくことを同時にやり始めており、両方を組み合わせでやっていくことが重要だと考えている。

- ◆ 子どもまんなかの施策展開は、ひきこもりや不登校など対策が主になると思うが、子どもを精神的に強くすることが必要である。

現在の教育の温かい環境で優しい子を育てることは非常にいいことではあるが、大人になると競争の世界に入り、大人の自殺も非常に多い。大人の自殺を減らすためにも強い精神を持った子どもを育てることが必要だと思う。

国での取り組みが難しいのであれば、市独自でお年寄りを活用するなど課外活動の一環としてでも何かやれないか。

- ◆ 社会で子どもまんなか社会がキーワードになっている理由としては、以前は子どもが我慢する社会「こどもがまん社会」だったという反省点がある。だからこそ今、子どもが真ん中にある社会をつくり、ひいてはみんなが真ん中にある社会に繋がっていく。生きづらさを抱えた、あるいは困難を抱えた子どもたちへは限局的なサポート支援でいいのかという議論があるが、やはり子どもが真ん中社会ということは、みんなが真ん中になる社会なので、限局的なものだけでなく普遍的な全ての子どもに対してということが大事なキーワードであるかと思う。

国としても子どもの時代から意見をきちんと社会が受け止めるというか、一人ひとりが大事にされる社会に向けて、対話を通じてやっていこうとしている。だからこそ子どもまんなか社会というのを姿勢を示されているのは、対話型の太宰府のまちづくりを描いてされているかと思う。

#### <市長説明>

⇒子どもの純粋な声を無視せず、大人が真剣に考えていることを示したいというのがポイント。一方で内容によっては自分たちでやってみたらと伝えることも必要。

今回、子どもたちが提案してくれたことを審査して予算をつけて実施していく取り組みを行っている。子どもまんなかというのはどういうことなのかまだ手探りだが、大人もかつては子どもだったため、大人も含めて参画できるのではと思っており、そういう点も議論していきたい。

- ◆ アナログと先進的技術の導入というのは非常に重要な方向性ではないかと考えている。以前あった同様のチームにおいても、新しい技術とともにアナログの重要性が多数議論され、先進的技術を推進していく上でアナログが最も重要になることを感じた。

今後、新しいチームでの議論においても、この両方を大切に物事を考えていきたい。

- ◆ まちおこしの仕事では高齢者も若い人とも関わるが、作業を依頼するとき、アナログ、紙を渡している。大多数は紙をもらったほうが理解が進むと言われており、作業を依頼する側は利便性を高めるためにデジタルで管理をしている。基本的に考え方として両方使うというのは大事だと思う。

- ◆ 未来の担い手である子どもたちがまちづくりに参画するという話の中で、一番最初に浮かんだのが平成30年度の第1回の子ども・学生みらい会議である。議場で子どもたちが議員となり、思いや質問を執行部に投げかけるという内容。ある子どもが学校に通学するときにかばんが重いということで、実際に市長と教育長にその重さのかばんを背負ってもらってそれを体験するということがあった。こういうやり取りがあること、それが今後に生かせることが非常に重要だと思う。良い資料であり市のHPから閲覧できるため、ぜひ皆様に御覧いただければと思う。

- ◆ 生涯人間として自分自身を育てていくために、我慢や苦労というのは必要と思うが、今はその必要がない風潮。我慢して克服する、壁を乗り越えるなど強くなるための方策の一つかもしれないが、そういうところに少し目を向けることが必要かと感じている。

- ◆ 優しい子かもしれないが、心を病んでしまって学校にいけない、就職してもすぐやめるなど、そうならないために打たれ強さを持っていただくため、少し教育課程などにおいても考えてほしい。

- ◆ 精神が強いに越したことはないが、子どもが精神が強くなれる環境にないところがある。子どもが精神的に強くなれない、たくましく生きられないという理由の一番に行政の支援の不足を感じている。

家を追い出されたり住む場所がない場合、自治体に相談に行くが、まず10代の学生への支援は本当にない。これからの生活が困窮するのが分かっているのに支援してもらえない環境にあり、市町村が支援してくれないと、国の貸付けに頼ることになるが、破産状態にないと申請が通らないと断られることがすごく多い。結果、必然的に手だてがなくなり自殺を選んだりするため、精神が強い強くない以前に生きる選択肢を与えられない、できるほうにかじを切れないという状況が若者にはかなりあると思う。

<市長説明>

⇒市として変わってきたこととして、自殺対策という表現が今回から生きることをサポートするという表現になっている。まず生きやすくということをコンセプトにつくり直した経緯もあり、死を選ばざるを得ないということを言わなくて済むということに繋がってくると思う。行政がどこまでサポートできるかというのは、難しいところだが、一歩前に踏み出したいと考えている。

- ◆ 大手の企業が不祥事を起こすケースを見ると右肩上がりで順調なときに既に様々な不祥事やトラブルが小さな芽として生まれていて、数年後に何らかのきっかけでオープンになり大問題になることがほとんどである。楠田市政は数字的に5年間を順調に右肩上がりで来ており、コアで支えられている太宰府市職員約380名の働きがいなり、生きがいというものが現場の実感としてどうなのか、一つの指標として、年間の総実労働時間がどういう実態で変化しているのか、そこにサービス残業が発生していないのかも含めて、チェックしたいと思う。
- ◆ 職員のやる気などの問題は基盤になるところだと思う。